



平成 20 年 5 月 27 日

各 位

2008 年 3 月期決算説明会資料の一部訂正について

2008 年 5 月 16 日に開催いたしました「2008 年 3 月期決算説明会」の資料の一部を、下記のとおり訂正させていただきます。

記

1. 訂正ページ

「2008 年 3 月期決算説明会資料」31 ページ

「2008 年 3 月期決算説明会資料」32 ページ

「2008 年 3 月期決算説明会資料（参考データ集）」56 ページ

2. 訂正内容

別紙のとおりであります（訂正部分には下線を付しております）。

3. 訂正理由

本年 5 月 16 日時点では、DeGolyer&MacNaughton 社の埋蔵量評価鑑定書が暫定版でありましたが、最終版を受領した結果、一部の埋蔵量に変更されたこと等から、別紙のとおり資料を訂正するものであります。

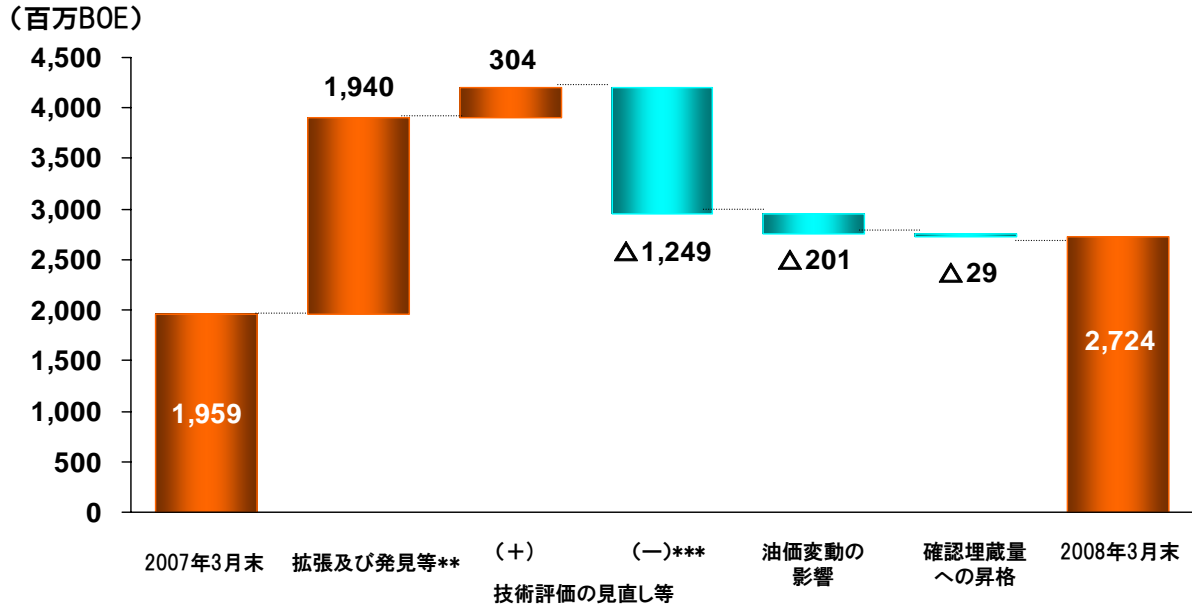
以上

「2008年3月期決算説明会資料」 31ページ

【訂正前】



### 推定埋蔵量\*の推移の要因分析



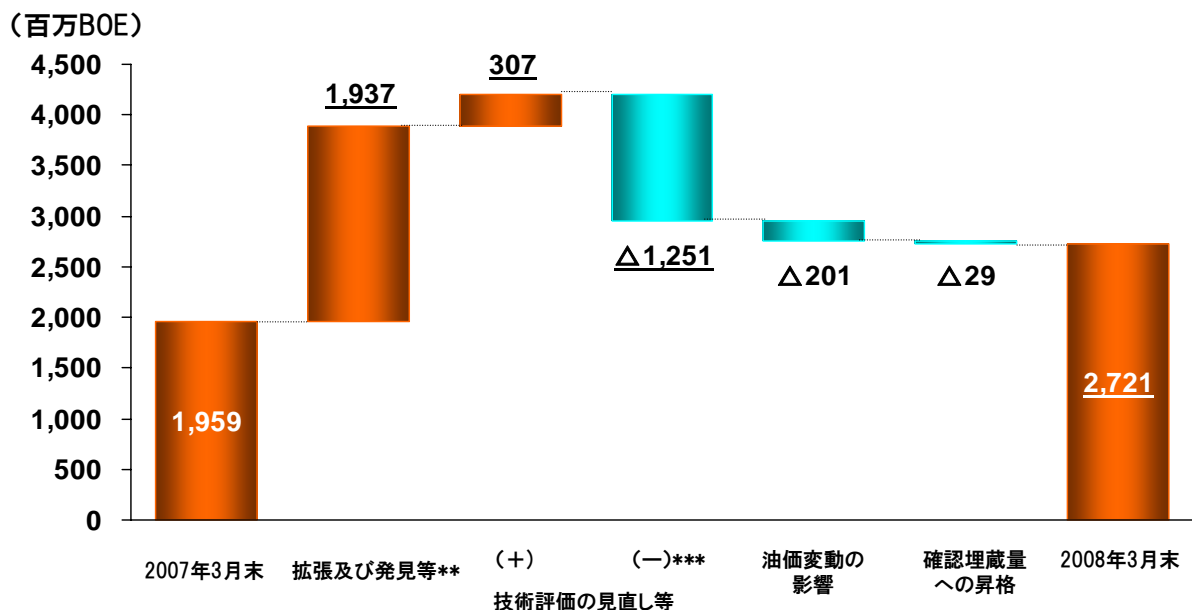
- \* 推定埋蔵量は、DeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMS(新基準)に従った確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計値から、SEC確認埋蔵量を差し引いた数値。ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り)は、RYDER SCOTT社の評価に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。
- \*\* 買収及び売却等を含む。オイルサンドプロジェクト(露天掘り)の埋蔵量の一部は、SPE-PRMSの確認埋蔵量に分類されるが、SEC基準の確認埋蔵量ではないため、推定埋蔵量に含めている。
- \*\*\* 技術評価見直し(-)には、SPE-PRMS(新基準)への変更に伴う減少分1,172百万BOEを含む。

31

【訂正後】



### 推定埋蔵量\*の推移の要因分析



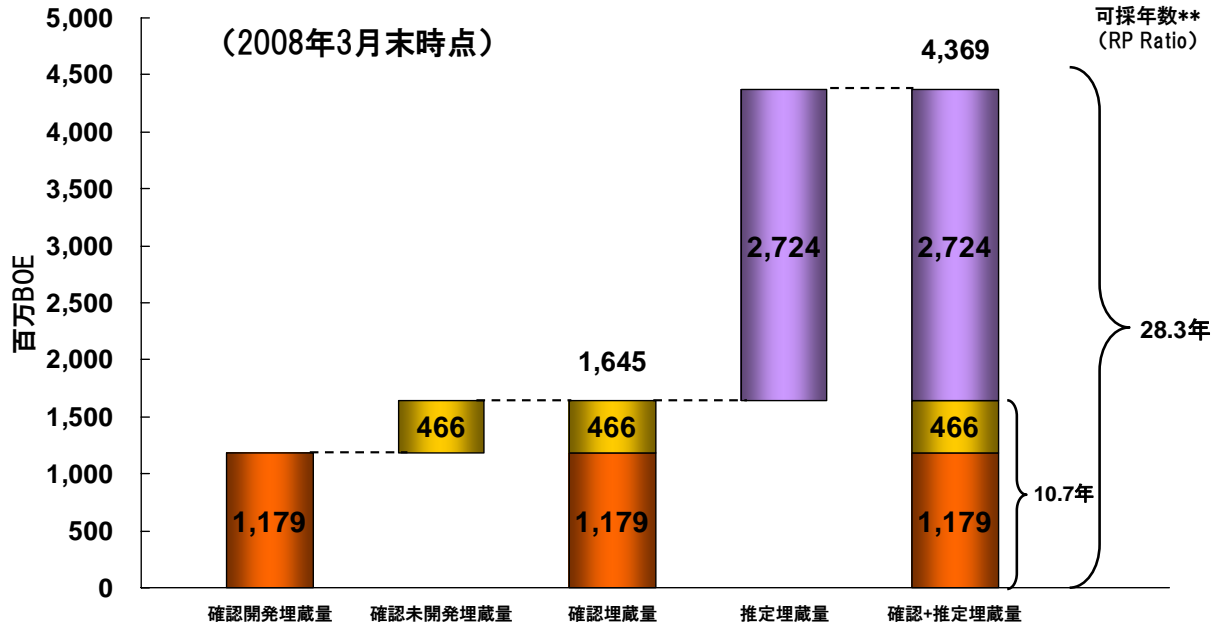
- \* 推定埋蔵量は、DeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMS(新基準)に従った確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計値から、SEC確認埋蔵量を差し引いた数値。ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り)は、RYDER SCOTT社の評価に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。
- \*\* 買収及び売却等を含む。オイルサンドプロジェクト(露天掘り)の埋蔵量の一部は、SPE-PRMSの確認埋蔵量に分類されるが、SEC基準の確認埋蔵量ではないため、推定埋蔵量に含めている。
- \*\*\* 技術評価見直し(-)には、SPE-PRMS(新基準)への変更に伴う減少分1,190百万BOEを含む。

31

「2008年3月期決算説明会資料」 32ページ  
【訂正前】



### 推定埋蔵量\*によるアップサイド・ポテンシャル

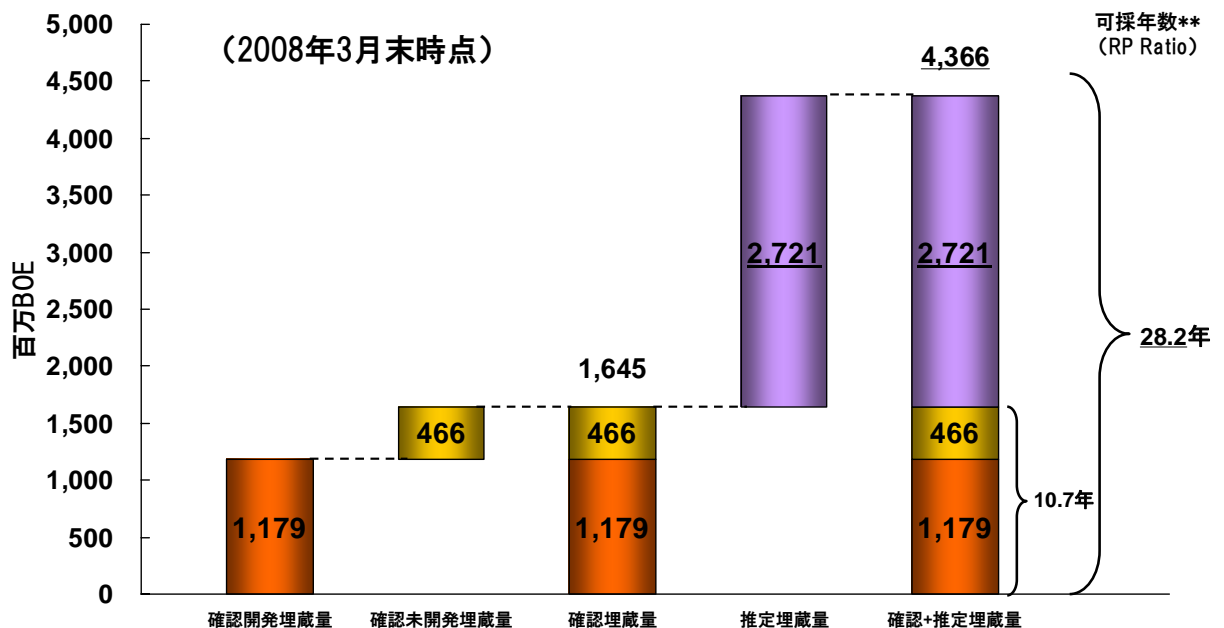


注: \* 推定埋蔵量は、DeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMS(新基準)に従った確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計値から、SEC確認埋蔵量を差し引いた数値。ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り)は、RYDER SCOTT社の評価に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。  
\*\* 可採年数=2007年度末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2007年度生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio) 32

【訂正後】



### 推定埋蔵量\*によるアップサイド・ポテンシャル

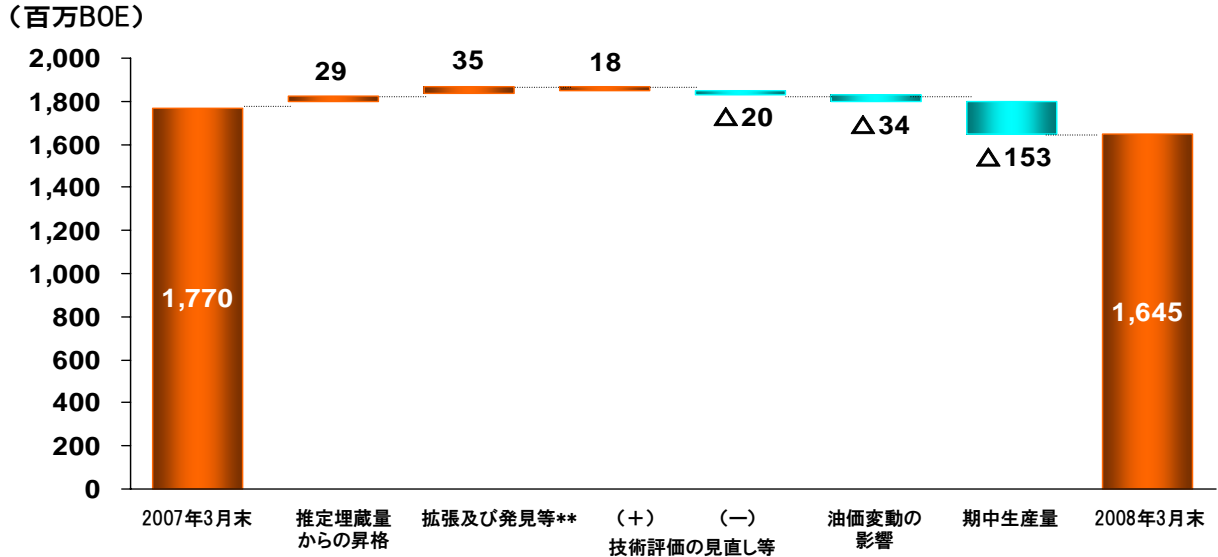


注: \* 推定埋蔵量は、DeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMS(新基準)に従った確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計値から、SEC確認埋蔵量を差し引いた数値。ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り)は、RYDER SCOTT社の評価に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。  
\*\* 可採年数=2007年度末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2007年度生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio) 32

「2008年3月期決算説明会資料（参考データ集）」56ページ  
【訂正前】



### 確認埋蔵量\*の推移の要因分析

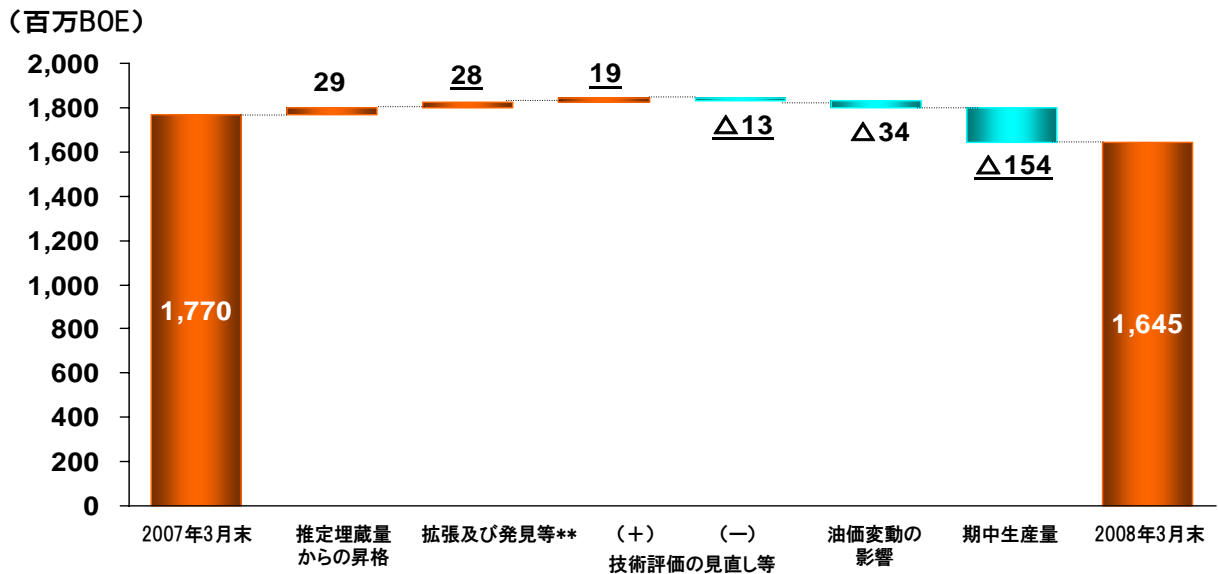


\* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC)規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。  
\*\* 買収及び売却等を含む。

【訂正後】



### 確認埋蔵量\*の推移の要因分析



\* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書に基づく米国証券取引委員会(SEC)規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。  
\*\* 買収及び売却等を含む。